



国際交流員の活動日誌

vol.59



「グラウンドホックデー」

Groundhog Day

グラウンドホッグという動物をご存じですか？

別名ウッドチャックであるグラウンドホッグは、北アメリカにいるネズミ目の一員です！毛は茶色で体長は約45〜61センチ、体重は6キロくらいです。特徴はビーバーに似ている2本の大きな前歯です。とても可愛いです！

では、グラウンドホッグデーとは？

アメリカ合衆国そしてカナダで毎年2月2日に行う独特な風習です。朝にグラ

ウンドホッグが巣穴から出るのを観察し、行動により季節を占います。天気晴朗でグラウンドホッグが自分の影を見る場合、冬はあと6週間続きますが、曇りで影を見ない場合は春が早めに近づくと言われています。この固有の伝統は1887年にペンシルベニア州のパンクサトニーで始まりました。いくつかのグラウンドホッグは全土で観察されていますが、ここで毎年一番有名なグラウンドホッグデーのスター、フィロというクラウドホッグが役目を果たします。

この風習が100年以上続いたということは正確なのでしょう？実はこれまで当たったのは39%しかないのです。コインを投げる確率よりも低いのです。それでも、可愛い動物の天気占いで朝が始まるのは楽しいです！（ララ）

地域の魅力 ふる里再発見

都市梁川の発展と歴史 - 2 -



かわらけ(梁川城跡より出土)

室町・戦国時代、各地の大名は、多くの悩みを抱えながら自国の経営にあたっていたようです。この悩みの種の一つが、家中（なか）の統率であったと考えられています。各地の大名は、家中が分断しないよう細心の注意を払っており、この状況が遺跡からも読み取れます。

全国の守護大名の館からは、庭園の跡や多くの建物の跡が見つかっています。

また、建物の周辺からは、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの土器が多く見つかっています。この状況は、南東北の国人領主であった伊達氏も同様です。

室町・戦国時代の伊達氏の館は、一辺120メートル程の正方形の館であったと考えられています。館の東端には庭園が設けられ、庭園と連動するように主殿や会所と呼ばれる建物などが立ち並んでいた様子が発掘調査から明らかになりました。また、これらの建物の周辺からは、多くの「か

わらけ」が出土しています。この多くの「かわらけ」は、主殿で行われた武士の儀式で使用され、多くの家臣が列席していた様子を物語っています。主殿で執り行われた儀式や会所で執り行われた宴席をおして、伊達氏が家臣との関係を深め、家中の分断などが無いよう注意を払っていた様子が読み取れます。

16世紀になると伊達氏の館は、拡張されていきます。伊達氏の威勢の高まりと歩調を合わせるように館が拡張され、街並みも拡充されていくようです。家臣の統率に力を注ぎながら自身の権威を高めていった伊達氏の様子が、伊達氏館や関連する遺跡から読み解けます。



梁川城復元模型
(福島県立博物館蔵)

※家中…大名の家臣の総称